

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372001756
法人名	医療法人尽誠会
事業所名	グループホーム尽誠苑
訪問調査日	平成 20 年 7 月 31 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 23 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

(別紙 4)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2372001756		
法人名	医療法人尽誠会		
事業所名	グループホーム尽誠苑		
所在地	愛知県豊橋市大脇町大脇ノ谷74番54 (電 話) 0532-65-2727		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成20年7月31日	評価確定日	平成20年10月23日

【情報提供票より】 (平成20年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 19人, 非常勤 2人, 常勤換算	20人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての 1 ～ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	75,600 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,600 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年7月20日現在)

利用者人数	27 名	男性 6 名	女性 21 名
要介護 1	6 名	要介護 2	7 名
要介護 3	11 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人木戸病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街から少し離れた山間の県境に位置し、街が一望できる関連施設の一角にある3階建のホームである。窓も大きく光を十分に取り入れ天井も高く広々とした空間に、ソファを置き畳の場所がある。カラオケを楽しんだりするなど個々にゆったりとくつろぐことができる作りになっている。居室の表札の横には部屋の丁目番地が記されている。「出逢いを大切に・・・」を基本理念とし、関連施設の協力の下に独自の物を作り上げようと地域の行事や施設内の行事などに積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
	併設の施設にて調理されていた食事を、月4回、個々の誕生日会にホーム内で作り楽しめるようにしている。今後そのような機会を少しずつ増やしていく取り組みがなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
重点項目②	職員を育てる取り組みとして内部研修は充実しているものの、ホームの立地条件もあり外部研修に参加できない現状もある。地域に働きかけるなど含め参加しやすい体制作りに取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は入居者家族、民生委員等で構成され「グループホームのこれから」と題して行事や緊急時の対応等について討議されている。地域との関わりやホームの質の向上について活発に意見を出し合っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
重点項目④	毎月の家族への手紙、年2回の顧客満足度調査の実施、面会時の対応により家族からの意見や不安を聞いている。それらを基に運営へ反映させ、対応に努めている。
	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
重点項目④	散歩の途中での関係作りや廃品回収・地域の祭りに参加している。地域へは、ホームの夏祭り等のイベントへの参加を呼びかけるなど関係作りに取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分らしく穏やかに過ごしていただけるよう「優しく接する」をモットーとし、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして職員全員で理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をもとに年間目標を立てて、毎朝の申し送り、月に1回の全体会議、ユニットごとの会議をし、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	県境という立地条件の中で、両県のイベントへ出かけたり、廃品回収やお祭り、関連施設合同の「いきいき祭り」の行事に参加し交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価や外部評価の意義を理解し、共有しながら改善に向けて具体案の検討や実践に繋げるための努力をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者から運営推進会議の開催について理解が得られるようになった。会議は定期的に行われ、併設施設の緊急体制等頼ることが多かった部分をホーム独自で行う方向に改善しつつあり、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談員が併設施設と兼務しており、相談やサービス提供に関する確認事項など市町村との連携を取り改善に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人ひとりの暮らしぶり、健康状態、金銭収支等は毎月定期的に報告されている。また、状態の変化や緊急時等は、その都度必要に応じて連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満を言いやすいように、苦情窓口を設けている。また、顧客満足度調査を行うなど改善に向け取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。異動や離職がやむを得ない場合は入居者へのダメージを一番に考慮し、必要最小限度になる様、各ユニット間で協力援助するなどの工夫がされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力用件表の活用により、段階に応じた育成や指導を行っている。内部研修については関連機関との連携により充実した研修になっており、研修内容も全員が共有できている。外部研修については、人員や経費の面で参加できる体制作りがなされていない。	○	「働きながらの学び」の機会作りのため職員が研修に参加出来る体制の整備や機会を確保する取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後に向け、勉強会や施設見学等の企画検討をしているが、実施に至っていない。	○	同業者との相互訪問を積極的に実施され、学習会や交流をもつことによりサービスの質の向上につなげていく取り組みが期待される。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の見学や試験的に入居して頂くなどして家族と共に相談をし、ホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう努めている。希望があれば家族の宿泊も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事準備、生け花、大正琴などを共に行いながら一緒に過ごす時間を大切にし、得意なことや知恵など共感する支援が実践されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話に交えて声掛けを密にし、会話の中から要望を拾い上げて、本人の思いを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや入居者の聞き取り調査を参考にし、職員間で意見交換やカンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認しケアプランへの毎日のチェック体制がなされている。随時介護計画の見直しを行っている。また、入居者の状態変化や状況、家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や必要に応じての買い物など外出に柔軟に対応し希望に沿うよう努力している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医がほぼかかりつけ医となっており、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に係る指針を作成し、本人や家族との話し合いや意思の確認をしながら支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「優しく接する」をモットーに入居者の思いを尊重して、プライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共有部分や玄関付近に椅子があり、くつろぎのスペースとなっている。一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月4回の昼食作りのほか、誕生日会はその人の好みのものを取り入れ、入居者と職員が一緒に昼食を作り、食事を楽しむ機会を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活のリズムにより入浴時間は午後に設けているが、曜日にこだわらず本人の希望に応じて対応している。介助は同姓で行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、各ユニットへの新聞の配布、その日のメニュー書き、洗濯たたみ等一人ひとりの力を生かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により関連事業所内の喫茶へ出かけたり、日課としての散歩の他にも、外食など外出の機会を多く設けている。中でも回転寿司は好評である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは、関連施設の棟続きにあり、1・2・3階の各ユニット毎に玄関がある。1・3階は施錠されていない。2階は安全面を考えて家族と相談し施錠しているが、外出したい入居者は引き止めず、職員が一緒に出かける支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人として防災委員会を設け話し合いをしている。施設東側の非難階段を利用し、年2回防災訓練を行っている。マニュアルも作成されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の栄養士により栄養バランスが考えられている。日々の食事や水分の摂取状況を把握し、職員が情報を共有し状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり、季節に応じた掲示がされている。共有スペースの一角に畳の部屋があり冬にはこたつが出されるなど雰囲気作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活習慣に合わせ個々の好みの物や使い慣れた物を持ってきていただき、ベッドや家具の配置を使いやすいよう工夫している。		

※  は、重点項目。